

令和4(2022)年「正覚寺報」1月号

お知らせ

年末年始は、大雪に見舞われ、明くる朝以降、雪が融けても凍って滑り易く値打ちのあるお寺参りになりました。下記はご案内です。

記

1月15日(土)のお通夜は中止致します。
 佛教婦人会新年会1月16日(日)午前10時
 初講 1月30日(日)午前10時～

特養訪問の道行きから

「いぬかみ」特養をお訪ねする前日、御電話しますと、「雪で道が狭くなっております」とのお話しです。予定通りに現地をお訪ねできるか案ぜられましたので、四日はJRで彦根迄行き駅からタクシーを利用しました。例えば、彦根は、普段は雪がなく除雪予算が計上されないため、大雪になると狭い道での車の行き交いはタクシーの運転手さんさえ大変です。

無事特養に赴き、時間が参りますと、三十人余のお年寄り達が、お内仏のお部屋にお集まりです。一緒に「らいはいの歌」をあげ終ってお年寄りの皆様と相對しますと、例外を除けば、多くは穏やかでにこやかなお歳をめた御門徒さん達です。

車で辿ったならば、びわ湖岸から南彦根に向かう入り口の在所は八坂です。八坂地区からカナダへ移住された御門徒さん達のお話し、時は、世界大戦・風雲急を告げる時代。

1940年、欧州では、ナチスの迫害を受けたユダヤ人達が「日本通過ビザ」を求めてリトアニアの日本領事館に押し寄せたこと、当時、領事代理だった杉原千畝(ちうね)が、政府の意向にとらわれず、「日本通過ビザ」を一

人で発給され、ユダヤ人の皆さんは日本経由でカナダに逃れられたお話し。

1941年12月8日(日)の日本海空軍によるハワイのオアフ軍港急襲で米国が日本に宣戦布告し、北米大陸では、日本からの移住者の皆様が苦難の歴史を歩まれました。

カナダでは米国と異なり収容所収容にこそなりませんでしたが、多くは浄土真宗の御門徒さんでしたからお聴聞をご要望になりましたが、お寺の建設が許されません。

その時、「それでは、私達の教会をお使いになって下さい」と温かく接して下さったのは、「杉原」のご縁に遇われたユダヤ人達だったのです。唯一人でも勇を鼓して人の道を実践された「杉原」の名は今でもカナダのユダヤ人の末裔から特別な眼差しで見られています。歴史に埋もれた温かいお話です。

特養での御法話は、るるお話申し上げた後、「ふとおおぎみるおすがたは」をご一緒に歌い上げ、コロナでお寺でのご法要がままならなくなったこの二年、ご本山の音御堂で演奏された「本願力のめぐみゆえ」をご紹介したのでしたが、こちらは歌い込み不足で残念ながら音痴になってしまいました。

終って、「有り難うございました」とお礼申し上げて会場を後にするとき、お婆さん方から帰ってきたのは、極楽の聖衆かとも見まがうばかりのそれは穏やかで和やかな感謝の笑顔でありました。

御門徒さんたちの数十年の生涯が如来様の大悲で育て上げられてきたお聴聞/お念仏の歴史が感じ取られる掛け替えのない一瞬でありました。合掌。